

～今月の読み物～

「木は地球を救う」 — 二酸化炭素を固定し循環する —

細田木材工業(株)
相談役 細田 安治

問屋組合111周年記念祝賀会に招待され、組合の歴史を記録したビデオのナレーションに、声だけ出演させてもらった。こんな名誉なことはなくうれしい限りだ。隣席の月報委員の伊藤さんになにか書いて頂けませんかと依頼された。少しでもお返しをしなければと老骨にムチ打ち筆をとった次第です。

日本の環境問題は、地球温暖化問題や中国から飛来する汚染物質などで問題となっている。環境を守ることは現世代のみならず、未来を守るために取り組まなければならぬ。そこで注目されるのが山の森林を保護し育成することが重要な問題である。

木は二酸化炭素を吸収し酸素を吐き出す

このような背景を踏まえ、木は地球を救います。木は山にありて、水を貯え酸素を吐き出し、二酸化炭素を吸収し固定する。やがて老熟し使命を終えると、二酸化炭素を固定したまま伐採され、都会へ運ばれ、都会で使われ、都会に木の森をつくる。やがて時間が経てば、木の森は解体され、木は用途別に選別され、肥料として森へ返される。また再生可能な木は、工業化木材に再生され蘇る。このように木は、二酸化炭素を固定したまま循環する貴重な資源だ。



木は地球を救う

◇木は水を貯え山を守り水を供給する

次の役目は人類生存の為になくてはならぬ水を貯えることだ。飲料水、農業用水、工業用水などさまざまな用途に使われる水、この水を天から降る雨から、地球に蓄える役目を担うのは木だ。

水の博士藤田紘一郎氏の「世界の水事情」「地球と水の現場を知り見直す時が来ている」によれば、百年単位で考えると、人口は倍になり、水を使う量は3倍になった。20世紀は「石油を奪い合う戦争」、21世紀は「水を奪い合う戦争」が始まる。地球は「水の惑星」と言われているが、実はほとんどつまり97.5%が海水であり、真水は僅か2.5%しかない。しかもその僅かな水のほとんどが、南極、北極での「氷」だ。

この「氷」以外に人類が使える水、即ち河川や湖沼の淡水だ。その量は全体の0.01%しかない。愕然とする数字だ。我々の日常生活では、「水と電気はタダ同然」として、それこそ「湯水のごとき無駄使い」を

している。我々戦中派は、小学校時代に地方へ疎開した。食糧難の時代であったが、「水」は貴重だった。井戸から汲み上げ桶に移し、子供は二人掛かりで天秤棒で桶を担ぎ「かまど」まで運んだ経験がある。つるべの井戸、ポンプの井戸などがあったが「美味しい水」、鉄分を含み少々色が付いた「まずい水」などの記憶がある。お風呂の水は更に貴重なものだった。今は便利になりすぎ、水道の蛇口から貴重な水を流しっぱなし、出しっぱなしで使い放題にしている。無駄使いはやめねばならない。

貴重な水は「うみやまあひだ」にある

ここで思い出したのは、そうだ、0.01%の水は「うみやまあひだ」に存在する。数年前、組合で上映したドキュメンタリー映画『うみやまあひだ』にあった。山に降った雨は、木に命を与え、木を育てながら栄養分たっぷりの水が里を潤し、新鮮な野菜を育て、牧場に牧草をもたらし、家畜を殖やし、プランクトン一杯の水が海に注ぎ魚を育てる。やがて、海の水は蒸発し雲となり雨となって再び山に降る。この自然の好循環の役割をはたしている水が、僅か0.01しかない。再び愕然とする。

水は自然の潤滑油

我々はもっと、貴重な資源の水を大切に、そして「山」を大切にしなければならない。「山」を守ることは木を植え、木を運び、木を使う我々「木材や」の使命は重大であります。地球環境を救う仕事に携わっていることを誇りにしなければならない。



水を貯える

木は水を貯え 山を守り水を供給する

洪水被害

台風による集中豪雨のための洪水被害が相次いでいる。今年は特に多く発生している。ここで気になるのが、流木による被害と報じられることだ。テレビの報道などでは、皮がむけ丸裸の流木が、土砂崩れとともに各所に被害をあたえている。木が悪者扱いされていると思うのは、筆者だけだろうか。

確かに流木が川を堰止め、橋を流し、家屋を壊している。しかしこれはあくまでも表面上のことで、このような洪水を発生させないようにすることが大切だ。

地球全体で洪水被害が増えている。アメリカ南部ミズリー川の氾濫による大洪水など、これらの現象は、地球全体の自然破壊をもたらすものだ。

気温の上昇は南極の水を溶かし、氷山の崩落が



山を守ることは木を植えること

相次いでいる。気温が2度上昇すると南太平洋の一部の島が水没するとも言われている。

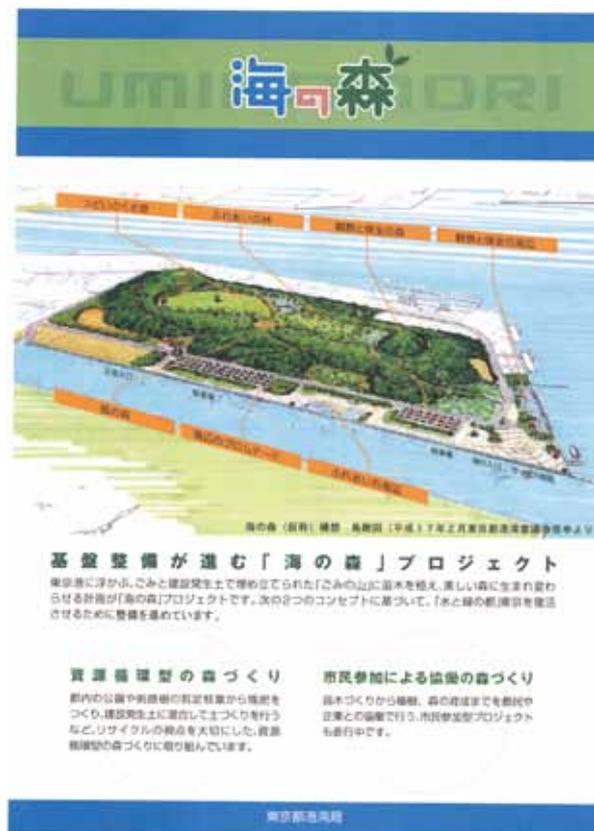
それもこれも、地球全体が便利さ豊かさを追求しすぎた結果で、地球温暖化は様々な被害をもたらす。人間の英知が問われるところだ。

再び木は地球を守る

伊勢神宮では、20年に一度の式年遷宮の為木を植え、森を育て、山を守り、水を貯え、人の命を守り、里を潤し、海の魚を育てる。やがて再び雨となって山にそそぐ好循環。

日本各地に鎮守の森が、地球を救う役割を果たしている。この間をつないでいるのが、我々「木材や」である。東京湾の海の森公園には、オイスカが主導している植樹活動が行われている。「木材や」も大勢参加している。このような活動はまだまだ小さな力にしかになっていない。しかし活動はやがて大きな力に発展していく。

最後にもう一度「木を使うことは地球を救うこと」日本人は木を使うことで地球に貢献している。我々「木材や」は、木を使う仕事に誇りを持ち更なる活動とともに進もうではありませんか。完



出典：東京都港湾局